

# ゆず栽培技術情報 6月号

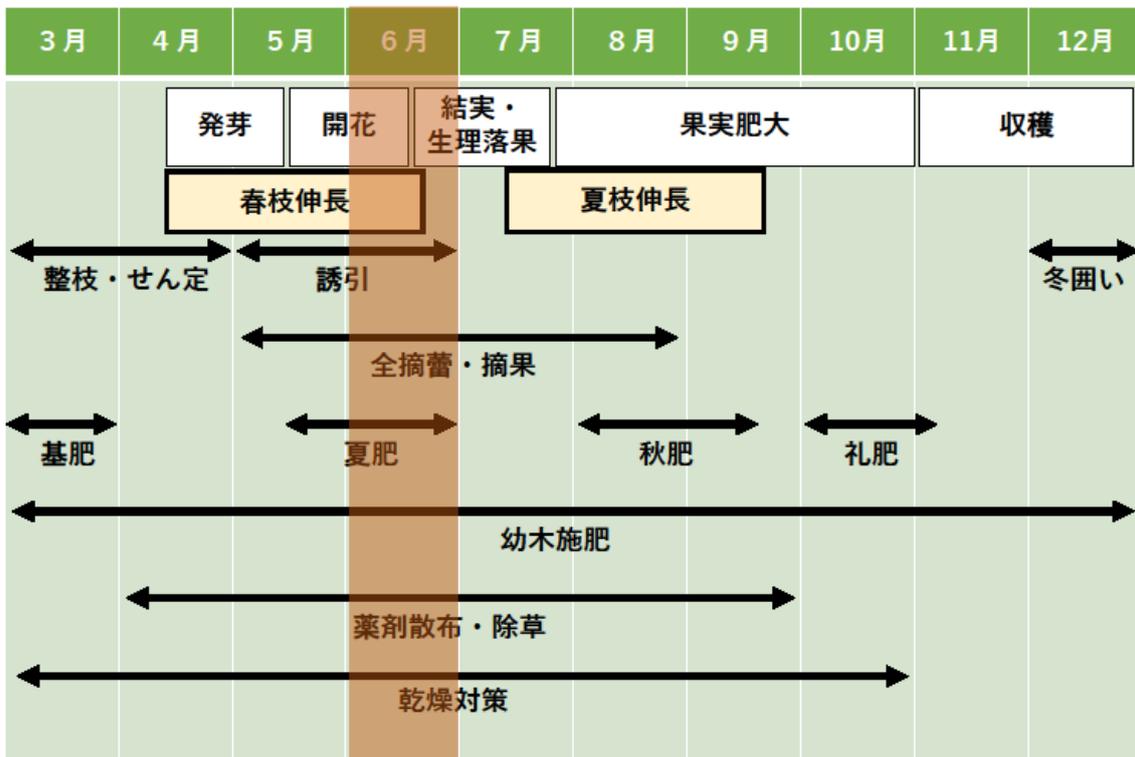
★ポイント★ ～誘引・施肥を行いましょ～

- ・ 前年に豊作だった園地では、今年の着花量が十分に確保できない可能性があります。
- ・ 6月中に誘引を終え、作業性を改善しましょう。
- ・ 今年の果実品質向上及び翌年の収量確保のため、しっかりと施肥（秋肥）を行い、春枝の伸長や果実肥大を促しましょう。

## 1 令和7年の生育概況

発芽日	開花始日	満開日	落弁期	生理落果期	肥大期	着色期
						
4月 第4半旬頃						

## 2 5月の栽培管理について

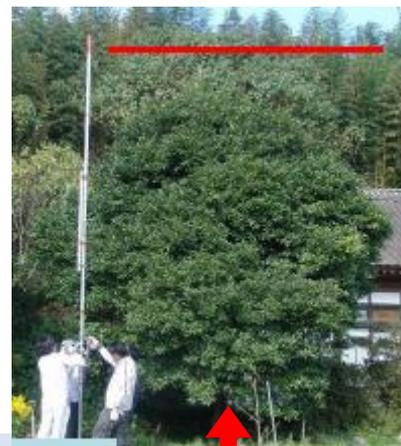


## (1) 誘引

 6月までに枝の誘引を終え、作業性を改善しましょう！

### ～誘引の効果～

- ・ 樹高を低くし、収穫・せん定等の作業がしやすくなります。
- ・ 樹の内部まで日光を当てることで、果実品質向上や花芽形成が期待できます。
- ・ 樹勢の良い若木では、花がつきやすくなります。



誘引をしないと・・・

樹が上方向に生長し、樹高が高く、管理しにくい樹形になっていきます。

## ア 誘引の手順

### (ア) 用意するもの

- ・ 木杭または竹杭
- ・ 掛矢 (杭打ちハンマー)
- ・ マイカ線
- ・ 革手袋
- ・ はさみ

トゲによるけが防止のため、革手袋を使いましょう。



図1 竹杭

### (イ) 誘引する枝を決める

- ・ 新梢 (緑色で柔らかい若枝) がよく発生している主枝を3～4本選びます。
- ・ しなやかな枝の方が、誘引時に根本の分岐部が裂けにくく、作業しやすいです。

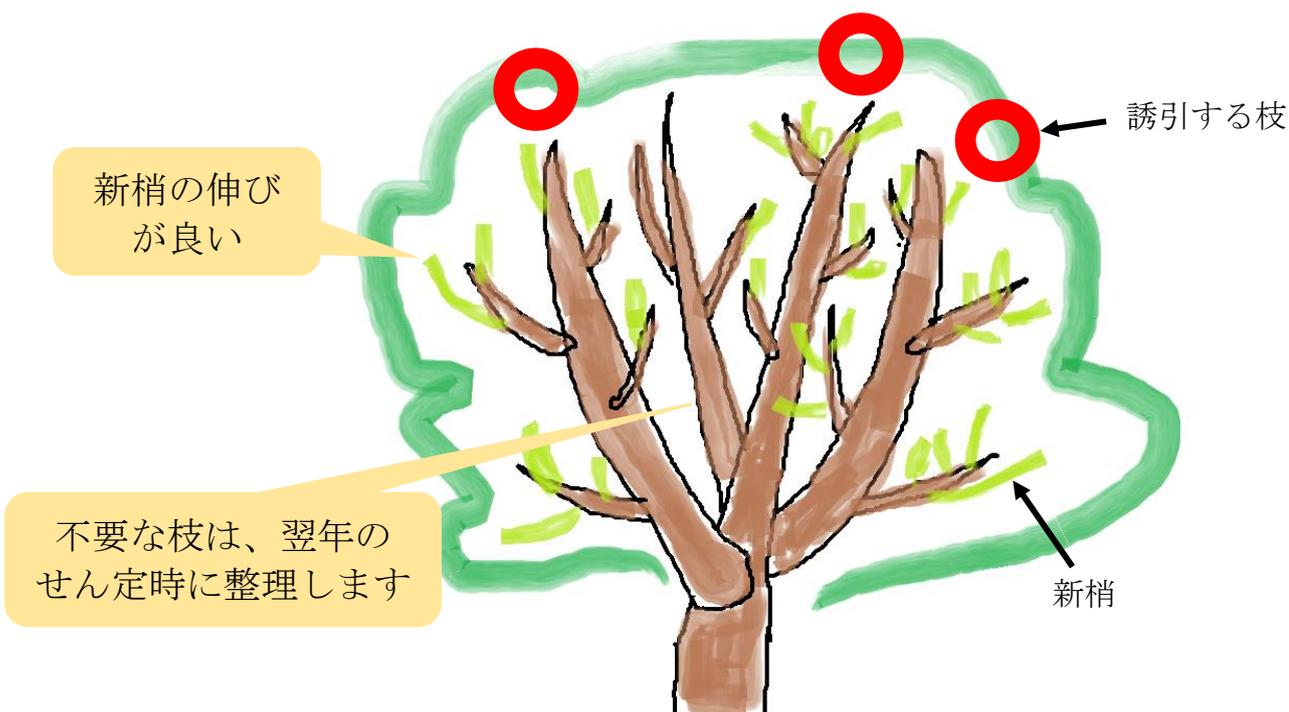


図2 誘引する枝のイメージ

(ウ) 誘引方向を決め、杭を打つ

- a それぞれの枝で、誘引する方向を決めます。
  - b 樹の幹から 50cm～1m 程度離れた位置で、杭を打つ位置を決めます。
  - c ハンマーで、杭の半分くらいが土に埋まるように、杭を打ち込みます。
- ※ 事前に樹周辺の除草を行いましょう！

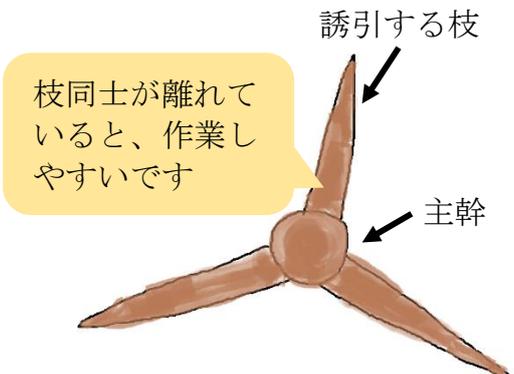


図3 樹を上から見たときの誘引方向のイメージ

(エ) 枝の分岐部をマイカ線で結束

- a 枝の分岐部は非常に裂けやすくなっているため、必ず、マイカ線で8の字に固定しましょう！ ※ 誘引前に結束するようにしましょう。



図4 誘引前に主幹—主枝の分岐部よりやや上を8の字に結束

(オ) 枝を引き、マイカ線で固定

- a マイカ線を1～2m程度に切り、マイカ線の一方の端を杭にしっかり固定します。
- b 誘引する枝に、マイカ線を引っ掛け、マイカ線ごと枝を引きます。
- c 目的の角度まで枝を引いたら、マイカ線を結び、固定します。

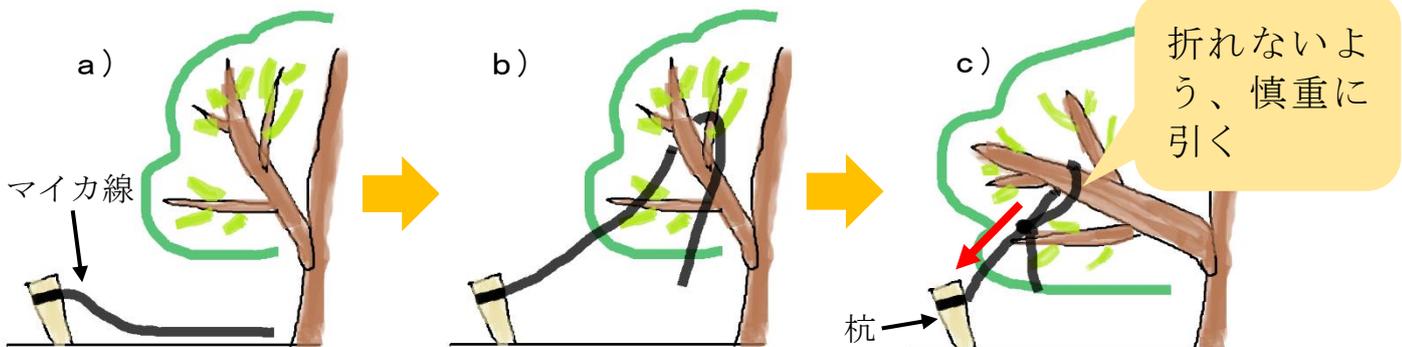


図5 枝の引き方

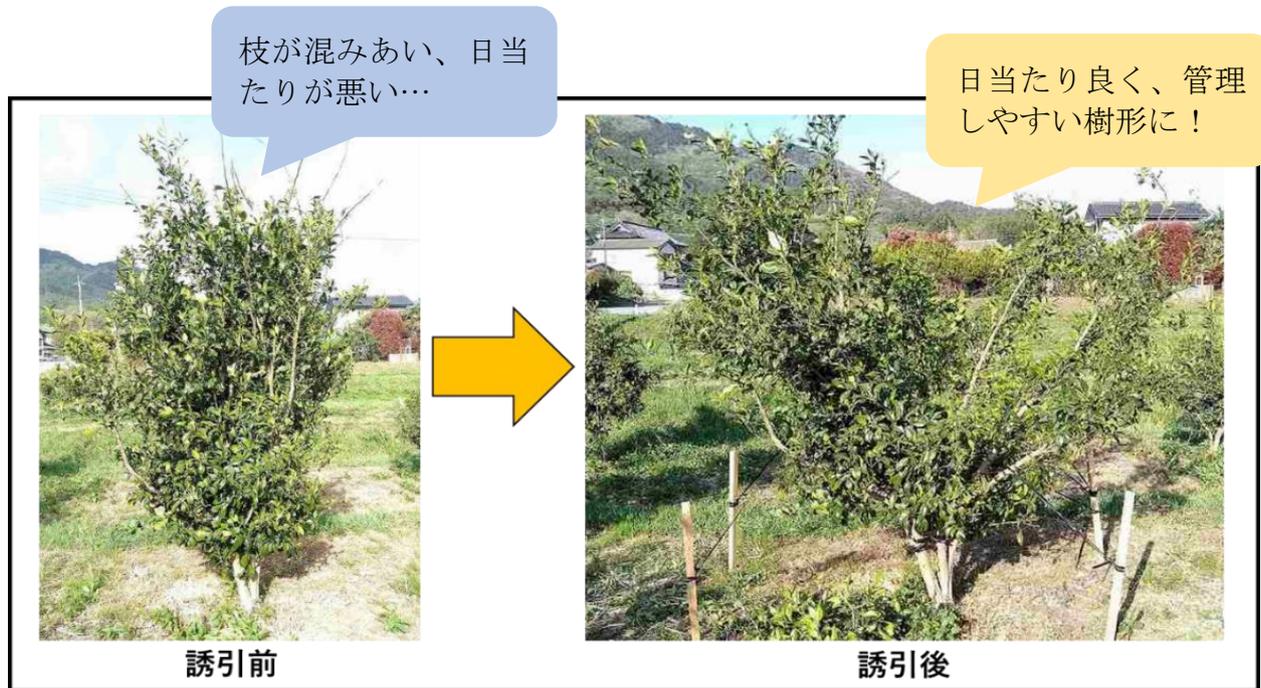


図6 誘引前後の様子

## (2) 全摘果（幼木のみ）

● 幼木の着果負担を減らし、樹冠の拡大を図るため、定植後、3～4年までは5月頃に蕾や花をすべて摘み取ります。

### ～ポイント～

蕾～開花期間中であれば、花を見分けやすく作業性が良いです。できれば落弁前に作業を行いましょう。



図7 ゆずの蕾

## (3) 施肥

● 6月の施肥（夏肥）は、果実の肥大や翌年の着果量の確保に有効です！

### ～肥料の種類～

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 化成肥料（アップル1号等）             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肥効が早い</li> <li>・ 成分のバランスが良く、比較的少量の散布で済む</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発酵鶏ふん             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 化成肥料に比べて肥効は遅め</li> <li>・ 成分に偏りがあるため、定期的に土壌分析を行い、化成肥料により不足分を補給する</li> </ul> </li> </ul> |
|--|--|

ア 成木（樹齢7年以上の樹）の施肥

時期	成分量(kg/10a)			種類別施肥量（参考）		
	窒素(N)	リン酸(P)	カリ(K)	アップル1号(N:P:K=17:7:13)	低カリ有機入果樹肥料(N:P:K=10:8:5)	発酵鶏ふん(N:P:K=2:6:3)
6月(夏肥)	8	5	7	1樹当たり500g(10a当たり50kg)	1樹当たり750g(10a当たり80kg)	1樹当たり4kg(10a当たり400kg)

※ 1樹当たり施肥量は、111本/10a（3m×3m）を基に算出。

幼木～若木は、毎月（3～10月）の施肥をおすすめします！

イ 幼木～若木（樹齢1～6年の樹）の施肥

時期	樹齢	成分量(kg/10a)			種類別施肥量（参考）			
		窒素(N)	リン酸(P)	カリ(K)	アップル1号(N:P:K=17:7:13)		発酵鶏ふん(N:P:K=2:6:3)	
					1樹当たり施肥量(g)	10a当たり施肥量(kg)	1樹当たり施肥量(g)	10a当たり施肥量(kg)
毎月(3月～10月)	1	1.5	1.2	0.9	80	9	680	75
	2	1.6	1.3	1.0	90	10	730	80
	3	1.6	1.3	1.0	90	10	730	80
	4	2.3	1.8	1.4	120	13	1,000	110
	5	3.0	2.4	1.8	160	18	1,350	150
	6	3.0	2.4	1.8	160	18	1,350	150

ウ 施肥の方法

株元の根が伸長する部分に、肥料を散布します。

降雨が少なく、乾燥気味の場合は、かん水を行うことで、肥効が良くなります！



図8 肥料散布場所

#### (4) 病害虫防除

 病害虫の発生を抑え、高品質な果実生産を目指しましょう！

##### ア そうか病

- ・ 病原菌は、旧葉の病斑で越冬し、発芽期以降、降雨のたびに伝染していきます。
- ・ 発病は9月頃まで続きます。主に7月までの発生が、果実品質に影響します。
- ・ 葉や果実に、トゲトゲとしたいぼ状の病斑や、かさぶた上の病斑を示します。

《防除方法》

- ・ 適期の薬剤防除を行います（令和7年度防除暦参照）。
- ・ せん定時に発病部の除去を行います。



図9 そうか病の病斑

##### イ 黒点病

- ・ 葉、緑枝、果実に黒い点を生じる病気です。
- ・ 初期感染（6～7月）は黒点が大きく、後期感染（9～10月）は比較的小さめです。
- ・ 果皮を加工する際は、病斑部が切り取られるため、等級が落ちます。

《防除方法》

- ・ 常に枯れ枝の剪除を行い、剪除後は枝を圃場内から持ち去ります。
- ・ 適期の薬剤防除を行います（令和7年度防除暦参照）。



図10 被害果実

##### ウ ミカンハモグリガ

- ・ 新梢葉を食害されると、葉が縮れ、光合成効率が低下します。また、被害葉は病害虫の発生源になります。

《防除方法》

- ・ 薬剤散布が効果的です（令和7年度防除暦参照）。



図11 ミカンハモグリガの食入痕

## エ アゲハ類

- ・ 幼虫が新梢に寄生し、葉を食害します。
- ・ 生まれたばかりの幼虫は、葉の表面を食害します。
- ・ 蛹になる直前の幼虫は、葉を丸ごとかじり取ります。

### 《防除方法》

- ・ 卵（クリーム色で、約1.2mmの球形）や幼虫を捕殺します。
- ・ 薬剤防除を行います（令和7年度防除暦参照）。



図12 生まれたばかりの幼虫



図13 蛹になる直前の幼虫

## オ コアオハナムグリ

- ・ 花の中に、頭から体全体を深く突っ込んで、蜜を吸います。
- ・ 吸蜜時に、果実の表面を傷つけるため、果実品質の低下を引き起こします。

### 《防除方法》

- ・ 見つけ次第捕殺します。



図14 コアオハナムグリ



図15 吸蜜の様子



図16 被害果

### 【お問い合わせ先】

病害虫の発生や、栽培管理に関してお困りの際は、大船渡農業改良普及センターまでお問い合わせください！

住所：大船渡市猪川町字前田 6-1

電話番号：0192-27-9918



### 3 ゆずの生態（新梢）

 ゆずの新梢には、春先に発生する春枝と、夏～秋に発生する夏枝・秋枝があります。

#### (1) 春枝

 春枝は、5～6月に発生する短い新梢を指します。

- ・ ゆずでは、今年発生・伸長した春枝が、翌年の結果母枝（花・果実を着ける枝）となります。

⇒ すなわち、今年花がついている枝は、前年に発生した春枝です。

- ・ ゆずを毎年安定的に収穫するには、春枝が多数発生・伸長していることが重要です。



図 17 今年発生した春枝

#### (2) 夏枝・秋枝

 夏枝は、7～8月頃に発生する新梢を指します。

- ・ 秋枝は、9月頃までに発生しますが、東北地方では発生が少ないです。
- ・ 夏枝・秋枝は、花芽がつきにくいのですが、樹冠の拡大や葉数の確保が期待できます。

#### (3) 花のつき方

 ゆずは、花のつき方から、有葉花、直花に分けられます。

##### ア 有葉花

- ・ 前年に伸びた春枝から、数枚の葉とともに花を持った芽が発生します。
- ・ 生理落果しにくく、果実の肥大も良い傾向があります。

##### イ 直花

- ・ 前年伸びた春枝に、葉を付けずに直接花を付けます。
- ・ 生理落果しやすく、栄養不足の樹等にも多く見られます。



図 18 有葉花



図 19 直花